

特集

このまちで、農業をしよう

農業は、田原本町の主要な地域産業の一つである一方、高齢化の進行や担い手の確保など、多くの課題があります。その一方で、若い就農者たちの活躍も少しずつ増えてきています。今回は、町の取り組みや、農業に携わる人たちの声をお届けし、このまちで農業を始めるきっかけになればと思います。

☎ 農政土木課農政係 ☎ 34-2077



田原本町で農業を始めてみませんか

町では、新規で農業を始めたいという人たちのために、国が行っている補助制度以外にもさまざまな取り組みを行っています。

● 推進作物などに対する補助

※国の経営所得安定対策の申請者に限ります。

補助額

- ① 5,000円／10a（対象作物…イチゴ、ナス、トマト、ホウレンソウ、^{かき}花卉、イチジク）
- ② 10,000円／10a（対象作物…味噌、小麦）

● GAP 認証取得に対する補助

補助額 1 認証につき 10 万円

※ GAP（農業生産工程管理）とは、農業において、食品安全、環境保全、労働安全などの持続可能性を確保するための生産工程管理の取り組みのことです。

上記以外にも取り組みを行っています。新規で農業を始めたい、補助について聞きたいという人はぜひ、農政土木課農政係（☎ 34-2077）へご相談ください。

◀次ページより、このまちで農業に携わる人たちの声をお届けします。

農業の現状と対策

全国的に農業経営の高齢化が進んでいます。田原本町も、65歳以上の販売農家の経営者数は348件で全体の約58%（平成27年農林業センサス）と半数以上の割合であり、次世代の担い手の確保が課題です。

そのような中、農林水産省の食料・農業・農村基本計画で「農業・農村は、食料の安定的な供給とともに、食品産業等の関連産業とともに地域の経済を支える重要な役割を担っている」とされ、新規就農や農業法人への補助、施設・機械購入への補助など多くの対策が打ち出されています。

農業でこのまちを盛り上げる

町では、さまざまな補助制度を利用して、若くして新規就農する人たちが少しずつ増えていきます。平成27年度から平成30年度の間、45歳未満で町の認定を受けた新規就農者は4名となっています。

今後の農業は、食料生産に加え、食品加工や、販売形態の工夫といった6次産業化への取り組みが重要です。町の新規就農者も、これらを意識した意欲的な就農をしています。田原本町で新しく農業を始め、このまちを発展させる原動力になってみませんか。



関係者インタビュー①

奈良のいちご屋さん

代表

青木健太郎さん

好きで、楽しい。
だから
いいものができる。



▲奈良県ブランドイチゴ「古都華」。栽培管理が難しいですが、糖度が高く、濃厚な味わいです。



▲冷凍された古都華。ふるさと納税の返礼品として、町の発展にも寄与しています。

困難を乗り越えながら

私は4年前から田原本町で奈良県産ブランドイチゴ「古都華」を栽培し、販売しています。

脱サラして農業を始めようと勉強し、最初ここに来たときは、周りから土地が低く水はけが悪いので難しいと言われましたが、当時借りられる土地が少なかったこともあり「関係ない、この場所です」と決め、挑戦しました。

確かに栽培は困難で、失敗も重ねましたが、その分知識と経験を得られて、鍛えられました。そして完成した自分のイチゴを食べてもらって笑顔になってくれた瞬間がたまらない。特に子どもに好かれているのも嬉しいです。

今後もとにかく「やる」

今後は販路を拡大するべく、戦略を持って人を雇い利益を出す、経営者になっていこうと考えています。わからないこともありますが、やりたいことはとにかく「やる」のが私のスタンスです。



▲栽培に高い技術を要する古都華の土耕栽培。でもそれが「楽しい」

そして、次代を担う子どもたちへの食育もやりたいです。このまちで作られているものを知って、少しでも農業に興味を持ってもらいたいです。
いいものを作る農業者とは

好きなものを作って、その経営ができて、食べた人の感想も聞ける。これらが農業の面白さだと思います。厳しい世界ではありますが、自分を精神面、仕事面で支えてくれる仲間たちがいること、そして、純粋に「農業が好きで、楽しい」この思いが、いいものを作ると確信しています。強い思いを持つ担い手が増えていけば、田原本町の農業はより盛り上がりえます。行政とも協力して、そのための力になれたらと思っています。

☎ 住所 田原本町黒田221

090-5134-6010



1人でも多くの人に、幸せになれる時間を。



▲▶ジャムの製造過程。イチゴに糖をまぶし、煮込む。一つ一つを丁寧に行い、高い品質を保ちます。



関係者インタビュー②

幸せイチゴ畑

代表

福田全志さん



◀古都華を惜しみなく使用したジャム。イチゴ農家の利点を活かし、思い切った商品開発を続けています。

加工品の開発など、さまざまな試み
を続けています。
そして、その先にある目標として「イチゴのテーマパーク」があります。価格競争と戦いながら、ひたすら売っていくのも一つの道ですが、スイーツとしてのイチゴの魅力を堪能し、体験できる空間をつくって、一人でも多くの人に幸せになれる時間を提供したい、これが私の進むべき道だと考えています。



▲パッケージデザインの一つとして、可愛いハート形を使用。パッケージデザインを工夫して、華やかさや珍しさ、高級感を感じてもらったり、イチゴ農家だからこそ出せる

目指すべき目標を見据えて
私の農場では、4品種のイチゴを栽培しています。生イチゴだけでなく、ジャムなどの加工品もつくり、道の駅などの直売所での販売を主な収入源としています。
イチゴやメロンは、生活において必須の食料ではない嗜好品なので、味はもちろん、他にはない、他には負けない特徴を持つことを意識して取り組んでいます。

住所 田原本町大安寺358の1
090・9040・2430



私も、なかなか思うようにはいきませんが、少しずつ目標に向かって進んでいきます。試行錯誤と努力を重ねていき、将来は活動の拠点である田原本町の地域活性化にも繋げていきたいと考えています。

先を考え、努力を積み重ねる
現状、新規就農で実際続けていくのはなかなか大変だと思います。もちろんイチゴ農家に限った話ではありません。ただ漫然と作るのではなく、自らの強みや特徴、やりがい、そして目指していく目標を見出して、努力を重ねる他ありません。そのため相談であれば、可能な限り力になれたらと思っています。



▲古都華、かおり野、あすかるビー、天使のいちご（白イチゴ）の4品種の苗を栽培。



▲実ったメロンの収穫。傷つけないように、慎重にはさみを入れる。



▲計量器で糖度、重量を調べ、糖度が高く、重いものを判別しています。



▲果肉はジェラートに利用。無駄なく活用して、廃棄ロスを防いでいます。



▲農園のオリジナルブランド「感動メロン」全国に栽培指導を行い、農業の発展に寄与。

田原本から、日本の農業を引っ張っていききたい。

物が世の中にあふれている今、特に嗜好品は、ただ安いだけでは訴求力が弱く、作り手の思いやストーリーが伝わらなければなりません。そのような中で「どれを買えばいいのか。食べごろが分からない。当たりはずれが多い」といった消費者の不満を解消するために、種、栽培技術、販売の仕方などを含めたパッケージ化を図っていきたくと考えています。これには、現在の農業の課題として、栽培技術が統一されていないことがあります。技術を安定化させて高い品質を保てるようにすることで、消費者に満足してもらうと

事業内容について
私たちの事業としては、種屋としてスイカ、メロンなどの品種改良を重ね、国内の産地や海外に売るのが一番のメイン事業です。また、メロンなどの栽培、販売も行っています。
農業を発展させるために

関係者インタビュー③

(株)松井農園
代表取締役

松井邦彦さん



ともに、世界に通じる農作物づくりを提供できると思っています。私たちが果たす役割は、日本の農業の力を底上げしていくことです。それは、パッケージ化された栽培技術などを熱意ある人に伝えて広げていく、農業のフランチャイズ化ができれば、すぐく夢があると思っています。

熱意ある人たちとともに

田原本町は気候も良く、農業が盛んなところなので、新規就農者が増えて盛り上がってほしいです。ただ現実的には何を作って、どうしていくのか、この大事なことを一からやるのは大変なことです。だからこそ、本気でやりたいという人たちのために、さまざまな形でサポートを続けたいと思っています。

☎ (株)松井農園

住所 田原本町泰庄272

☎ 0744・32・2035

FAX 0744・33・6780

